

1972. 3

修学旅行

行動 の記録



旅行委員会

1972.3

修学旅行

行動の記録



旅行委員会

春の嵐の奈良，霧雨に煙る京都，
そんな静かな古都を，私たちは3月
20日から23日にかけて旅行した。そ
のあいだには，永遠の美しさを称え
た庭園に驚いたり，見知らぬ人びと
と触れあいに，ふとした旅の風情を
感じたりもした。そのような修学旅
行での，しみじみとした印象をとど
めるために，この「行動の記録」を
編集した。

この記録は，各班の班長に書いて
もらったものであるが，提出が半数
しかなく，残念ながら全体をのせる
にいたらなかった。しかし，これだ
けでも，終日の雰囲気や，あるとき
のエピソードなど，旅の実感は仄仄
と再現されて，皆に伝えられるので
はないだろうか。

昭和47年7月20日

旅行委員長 小林 隆治

第3班

高橋京子(A) 立木薫(B) 野村良子(C) 吉田真起(E)

3月20日(月) (見学コース)

大文字旅館13:05——14:00 三月堂——15:00 万葉植物園——ささやきの小道——15:45
新薬師寺——16:30 白毫寺——17:15 大文字旅館

(感想)

今日は、風雨とも強かった。傘をさしていられない様な時もある。三月堂の月光菩薩像が見たかったのである。非常に暗い室内では菩薩の顔も定かではない。写真の様には、はっきり見えず、静かな室内では懐中電燈をつけるのは蟬れる。しかしフックラと合わせた手、慈悲深い表情はさすがに期待を裏切らなかった。

ささやきの小道は、わずかに10分位で通り抜けられてしまう。しかし、あしびの花が咲き、小川が傍を流れ、この時は雨あがりのため木の香が素晴らしく、決して東京では味わえないものを市内で味わえるのは大事なこともかもしれない。

急な階段を懸命に登ってたどりついた白毫寺には、別に見るものもなく、拝観時刻もとうに過ぎて深閑としていた。寺の子供が椿の花を輪に造っていたのが印象的だった。

3月22日(水) (見学コース)

御殿荘8:05——京阪三条8:24——9:11 高雄——9:30 高山寺——11:00 神護寺——
13:40 大覚寺——15:30 西芳寺——17:15 御殿荘

(感想)

写真撮影が終わってすぐ駆け出して、8:24のバスに乗れた。終点に近づくにつれて車内の空気までヒンヤリしてきた。清滝川の流れを横に見て、高山寺境内に入ると、杉の木立の中の空気はさわやかで、別世界の様である。金堂に先に参ったばかりに、石水亭が見つからなくなって、山道を大分登ると、うぐいすの音が聞こえてくる。珍らしい、かわいらしい花を見つけた。遠回りではあったが、京都の郊外を満喫した。石水亭の石垣に見知らぬコケが植わっていた。我グループのNさんが、「マルゴケ」と命名した。

神護寺は「階段寺」。「かわらけ投げ」で厄払い。苦勞して登った霊場は親しみがわく。

高雄山越から福王寺、ここで乗りかえて、山越へ。地図を見まちがえてしまったが、太秦開日町のすぐそばに出た。バスで大覚寺へ。ここで昼食。大沢池を見ながら食べた。かわいい、たぶん雛鳥だと思うが、水鳥が泳いでいると思うと、頭からもぐってしまう。Tさんの命名で「もぐり鳥」。入口の松に圧倒された。嵐山から西芳寺へ。先日、万葉植物園で見たあしびが咲いていた。話しながら歩いていたら、広いと思った園内もあつと言う間である。嵯峨野辺で時間がとれずに

(感想)

雨の大原である。しっとりとして良い時に行ったと思っている。50分位バスに乗ると、市内を離れた感が強い。建礼門院の頃とは比べものにならないくらいにぎやかになった大原ではあろうが、私にはやはりひなびて見える。

寂光院へ行った。おそらく当時は訪れる人もなかったであろう。庭に花が咲くのを待ちつつ冬を過ごしたであろうが、いろいろなことが思い浮かぶ。

三千院へ行く途中、店にはいって昼食をとる。雨が降っているので、屋外では到底食べられない。ただ、お弁当を食べるのでは申し分けないので、「とろろそば」をとった。この時は、大きくて重いお弁当がうらめしかった。こたつで暖をとって1時間位そこに居た。三千院に行く道が気にいった。川の中にゴミがあるのは耐えられなかったが、虹の間で説明を聞いていてしびれてしまった。虹といっても秋でなければ意味がなく、色あせた衾絵があるだけである。大体今頃はいう、すさまじき季節である。花もなければ、川下りの雰囲気もなければ、もちろんもみじもない。雪さえもないのである。あるのは時折り降ってくる雨だけ。説明だけで時刻がきてしまった。庭も見ずに早々に引きあげてきた。京都駅に1時間以上もいたのに……。

第6班

樋本英一(A) 杉浦純(A) 三浦敏洋(A)

3月20日(月) (見学コース)

大文字旅館13:00——13:05猿沢の池——13:10興福寺——13:30奈良国立博物館——13:35奈良県庁——13:40春日大社——14:15二月堂——14:20——三月堂——14:30東大寺——14:35大仏殿——14:40正倉院——15:00大文字旅館

(感想)

雨がすべてをぶちこわしてしまったのでした。我が班は、若草山を中心とする丘陵地帯を歩きまわるつもりでしたが、それはそれは無理な話でした。しかし二月堂の付近の山はなかなかローカル色豊かで(生活がにじみ出ている)我が班の樋本写真部員は夢中で写真を撮りまくっていたのです。その他のいわゆる、著名な場所は、強引に素通りして、なんとこの日はお金を全く使わないで済んだのでした。“新幹線は思ったよりつまらなかった”(他班の弁)

3月22日(水) (見学コース)

御殿荘8:00——8:50京都駅9:03——9:19花園——9:40広隆寺——10:25嵐山——10:30岩田山自然遊園地——11:10鹿王院——12:00苔寺——13:10竜安寺——13:40金閣寺——14:20大徳寺——16:00御殿荘

(感想)

この日は、言わば、この旅行のハイライトとなったのです。なんといっても2日分の予

定を1日で回ろうと決心したのでですから大変なことでしたが、それでも

ち並び、この日初めて京都の慕情があったので、一度祇園に行くべし！哲学の小道を西田幾太郎が純粹経験を思索しながら歩いたので、我々も哲学の世界へ没入することをこころがけるべし！

3月23日(木) (見学コース)
御殿荘8:00——祇園——鳥丸三条——大原——寂光院——三千院——大原——京阪三条——七条——15:30京都駅
(感想)

市バス、市電が通勤時間と重なったため、非常に混雑したので、時間帯を慎重にすべし！この日は朝から雨だったが、大原は雨の方がしっとり濡れて良いので、大原は雨の降る時に行くべし！（なぜならば、三千院では、番傘を貸してくれたから）弁当をバスの中で食べたが、非常の際はそういった臨機応変なところがけを持つべし！

第11班
松樹道真(A) 中村真理(G) 山崎竜弥(G) 湯山康樹(G)

3月20日(月) (見学コース)
大文字旅館13:00——奈良駅13:30——14:00浄瑠璃寺——15:00興福寺境内、奈良公園
16:00——16:30大文字旅館
(感想)
バス道路は細く、曲りくねっていて、くぼみや何やらでだいぶ揺られました。また、降りてからの道も、折りからの雨でぐじゃぐじゃ。以上、いかにも奈良らしいという印象を受けました。
もう少し時間をもらって、奈良の各地が見られればよかった。

3月22日(水) (見学コース)
御殿荘8:00——京阪三条——広隆寺——嵐山——苔寺——天竜寺——12:00落柿舎——二尊院——清涼寺——嵐山——平安神宮——16:30御殿荘
(感想)
京阪三条に出るまでに手間がかかった、複雑、めんどろ。広隆寺の弥勒は150円も払って見た価値があったかどうか…。二尊院は予定外だったが、大蛇退治の骨や、法然のあしびきの絵などおもしろかった。平安神宮の出店で友人がたこやきを買ったのだが、値段が明示されておらず、聞けば200円とは高すぎる。学生だからってふっかけてな。

3月23日(木) (見学コース)
御殿荘8:00——下鴨神社9:00——建仁寺——豊国神社——三十三間堂——智積院——京都タワービル15:00——15:30京都駅

(感想)
鴨川沿いに、小雨の中を下鴨神社までの道は何とも言えぬ情緒があった。下鴨神社でも拝観者は僕達だけ。建物も素朴で、心の安らぎと落ち着きが得られました。来たかいがあった。豊国神社は予定外。近くまで来たついでに、ちょっと立ち寄ってみたら、これが以外に良かった。秀吉、秀頼の字のうまいこと。
京都駅の入場料30円は何とかならないのか。

第13班
奥羽史子(B) 伊達淳子(B) 鈴木佳子(G) 小室恵美子(H)

3月22日(水) (見学コース)
御殿荘8:20——バス停8:50——到着9:50——寂光院10:10——三千院11:25——曼殊院14:13——詩仙堂15

